

発表要旨 作成例

“今”の気持ちを大切にす認知症ケア

—主役体験等をととした自分らしい生活—

社会福祉法人△△△△ 特別養護老人ホーム△△△△ホーム

○東山 次郎、山田 花子

(主役体験 自分らしく 認知症ケア)

1. 目的

特別養護老人ホームにおける入居者への関わりとして主役体験(演出性集団精神療法)・音楽プログラム・認知症あるある(掲示・職員向け)・認知症ケア対応計画書(職員向け目標)の実践を通して“今”の気持ちに寄り添い自分らしく生活していただける事、ケアの質の向上を図る事を目的とした。

2. 実践内容

- (1)主役体験：月に1回、参加2名、時間16時～17時(平成25年度から)
平成27年7月■■高校にて高校生との体験交流として2名参加
- (2)音楽プログラム：月に10回位、参加1回あたり2名、時間14時～14時半
- (3)認知症あるある：(職員向け啓発ポスター、2カ月おきに掲示)
- (4)認知症ケア大目標：「○○ホームの主役はあなたです」を27年度目標とした。また月間目標を設定。

3. 結果

主役になり体験する事で適度な緊張感と演出によって参加された方は、物忘れがあっても楽しい生活ができることを実感し、主症状である物忘れが気にならなかった。うまく表出できなかった感情を表に出したことによって安堵感を得られるなど自信を持つことに繋がった。音楽プログラムはパーソナルソング(本人の好きな曲)を聞くことで当時の記憶が蘇り生き生きとした表情で歌うこともあり、情緒の安定化等の効果に繋がった。認知症あるある(職員向け啓発ポスター)・認知症ケア対応計画書(職員向け目標)は職員自身のケアの振り返りなど自己を振り返ることに繋がった。

4. 今後の課題と考察

主役体験、音楽プログラムにより、認知症の人を主体とした実践が行われ、参加者は普段の生活の中で笑顔や言葉が増える事、またストレスを軽減し自分らしい生活を送れる効果もあると考える。認知症あるある(職員向け啓発ポスター)、認知症ケア対応計画書(職員向け目標)を通しては職員にはいろいろな気づきが起こって、自己を振り返りができた。今後も本人の視点にたった認知症ケアができるように検討して行きたい。